

7. 研究所関係資料

1. 設立の経緯

東京文化財研究所は、2001（平成13）年4月1日に東京国立文化財研究所が独立行政法人化され独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。その前身である東京国立文化財研究所は、1952（昭和27）年4月1日に発足し、その母体となったものは、昭和5年に創設された政府機関の帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は、1924（大正13）年7月、帝国美術院長子爵故黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために寄附出捐した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選択を伯爵牧野伸顕に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原鏝二郎及び東京美術学校校長正木直彦とはかつて諸方面の意見を徴し、またわが国美術研究の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立の上は一切これを政府に寄附すること。

2. 年代別重要事項

期 日	事 項
昭和元年12月25日	前記の事業を遂行するため委員会が組織され、東京美術学校校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業については東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列については東京美術学校教授久米桂一郎・同岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建物造営については東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務については遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。
昭和2年2月1日 同年10月28日	美術研究所準備事業を開始した。 東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階2階建、延面積1,192㎡の建物1棟を起工した（本館）。
昭和3年9月	前記の建物が竣工したので、黒田記念館と名付け、美術研究所開設のため必要な備品・図書・写真等の研究資料を設備し、また館内に黒田子爵記念室を設け、黒田清輝の作品を陳列した。
昭和4年5月29日	遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。
昭和5年6月28日 同年10月17日	勅令第125号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。 美術研究所開所式を挙行了た。
昭和7年1月1日	美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物『美術研究』を創刊した。
昭和7年4月18日	株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う5か年間毎年5千円、合計2万5千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。

期 日	事 項
同年 5 月 26 日	帝国美術院はこの申出を受理した。 明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。
昭和 9 年 10 月 18 日	毎年 10 月 18 日を開所記念日と定めた。
昭和 10 年 1 月 28 日	鉄筋コンクリート造、2 階建、延面積 129m ² の書庫が竣工した。
同年 4 月	『日本美術年鑑』の編纂事務を開始した。
同年 6 月 1 日	勅令第 148 号により美術研究所官制が公布された。 研究資料閲覧規程を制定し、閲覧事務を開始した。
昭和 12 年 6 月 24 日	勅令第 281 号により美術研究所官制中改正の件が公布され、従来、帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。
同年 11 月 29 日	美術研究所長職務規程、美術研究所事務分掌規程が制定された。
昭和 13 年 2 月 12 日	木造、平屋建、延面積 97m ² の写真室 1 棟が竣工した。
昭和 19 年 8 月 10 日	黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。
昭和 20 年 5 月 28 日	美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町 1 丁目日本間家倉庫 3 棟に疎開した。
同年 7 ～ 8 月	酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市外牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。
昭和 21 年 3 月 29 日	酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。
同年 4 月 4 日	酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し、引揚げを完了した。
同年 4 月 16 日	東京都西多摩郡に疎開中の黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。
昭和 22 年 5 月 3 日	美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。 国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた（保存科学部の前身）。昭和 23 年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室（66m ² ）に設けた。
昭和 25 年 8 月 29 日	文化財保護法の制定にともない、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。 文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。
昭和 26 年 1 月 31 日	美術研究所組織規程が定められ、第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。
昭和 27 年 4 月 1 日	文化財保護法の一部が改正、東京文化財研究所組織規程が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の 3 部 1 室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。 また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。
同年 7 月 1 日	芸能部研究室として東京藝術大学音楽学部邦楽科教室 2 室を同大学から借用し、研究を開始した。
昭和 28 年 4 月 26 日	保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫 132m ² を改造のうえ移転した。
昭和 29 年 7 月 1 日	東京文化財研究所組織規程の一部が改正され、東京国立文化財研究所となった。
昭和 32 年 3 月 22 日	東京国立博物館構内に木造、外部鉄網モルタル塗、平屋建、8 m ² の保存科学部の薬品庫が竣工した。

期 日	事 項
昭和32年11月30日	従来の2階建書庫の上にさらに1階を増築3階建とし、増築分延面積71㎡が竣工した。
昭和34年4月30日	東京国立文化財研究所研究受託規程が定められ、この年度から受託研究が開始された。
昭和36年9月16日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、従来の庶務室は庶務課となった。
昭和37年3月31日	東京国立博物館内に保存科学部庁舎（保存科学部実験室）として、鉄筋コンクリート造、2階建、延面積663㎡の建物1棟が竣工した。
同年7月1日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。
同年7月20日	芸能部研究室は、保存科学部庁舎の竣工にともない、旧保存科学部庁舎に移転した。
昭和43年6月15日	文部省設置法の一部が改正され、本研究所は文化庁附属機関となった。
昭和44年8月23日	保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎（延1,950.41㎡）の起工式が行われた。
昭和45年3月25日	前記の別館が竣工したので、同年5月26日竣工式が行われた。芸能部は、別館3階に移転した。
同年5月8日	保存科学部は別館の地階～2階に実験用機械類の移転据付を完了した。
同年6月29日	保存科学部庁舎の1階の模様替工事に着手し、同年10月15日工事が完了した。
同年11月2日	所長及び庶務課は、本館から保存科学部庁舎の1階に移転した（本館は、美術部庁舎となる）。これにより研究所の所在地表示は「12番53号」から「13番27号」に変更された。
昭和46年4月1日	保存科学部庁舎及び別館の敷地2,658㎡を東京国立博物館から所管換えされた。
昭和48年4月12日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。
昭和52年4月18日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。
昭和53年3月20日	本館構内の写場等（木造、平屋建、延面積144㎡）を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積569.95㎡の建物が竣工した。
同年4月5日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部に第三修復技術研究室が置かれた。
昭和59年6月28日	文部省組織令が改正され、本研究所は文化庁施設等機関となった。
平成2年10月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、新たにアジア文化財保存研究室が置かれ、5部1室1課となった。
平成5年4月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、アジア文化財保存研究室は、国際文化財保存修復協力室となった。
平成7年4月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力室が廃止され、新たに国際文化財保存修復協力センターが設置された。同センターには、企画室及び環境解析研究指導室が置かれ、1センター5部1課となった。

期 日	事 項
平成7年4月1日	東京藝術大学と「東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻の教育研究に対する連携・協力に関する協定書」が交わされ、連携併任分野として独立専攻大学院文化財保存学専攻（システム保存学）が設置された。
平成9年10月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力センターに保存計画研究指導室が置かれた。
平成12年2月4日	新営庁舎として、鉄筋コンクリート造、地上4階地下1階、延面積10,557.99㎡（建築面積2,258.48㎡）が竣工した。
同年2月21日	新営庁舎の竣工にともない、別館（庶務課・芸能部・保存科学部・修復技術部・国際文化財保存修復協力センター）部分の移転が開始された。
同年3月6日	新営庁舎の竣工にともない、本館（美術部・情報資料部）の移転が開始された。
同年3月22日	建設省関東地方建設局営繕部より、新営庁舎の外構工事、植栽等の引き渡しを受け、新営庁舎関係の工事が完了した。
同年5月11日	新営庁舎の竣工を記念し、開所記念式典を挙行了した。 この式典の挙行に際し、毎年5月11日を開所記念日と定めた。
平成13年3月29日	黒田記念館改修工事が竣工し、展示スペースが黒田記念室及び展示室の2室になった。
同年4月1日	東京国立文化財研究所は、奈良国立文化財研究所と統合され、独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。 この独立行政法人化にともない、東京文化財研究所は、管理部、協力調整官一情報調整室、美術部、芸能部、保存科学部、修復技術部、国際文化財保存修復協力センターの1センター5部1協力調整官一情報調整室となった。
平成15年9月19日	黒田記念館にエレベーターを設置し、門扉、外構の改修工事をを行った。
平成18年4月1日	文化財研究所組織規程の一部が改正されて、協力調整官一情報調整室は企画情報部に、芸能部は無形文化遺産部に、国際文化財保存修復協力センターは文化遺産国際協力センターとなった。
平成19年4月1日	独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所は、独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館との統合により、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所となり、黒田記念館は、東京国立博物館に移管された。 この統合にともない、東京文化財研究所は、美術部を企画情報部に、保存科学部と修復技術部は保存修復科学センターに統合し、3部2センターとなった。
平成22年4月1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、管理部は研究支援推進部となった。

3. 歴代所長（昭和5年～平成28年度）

役 職	氏 名	期 間
主事	正木直彦	昭和 5. 6.28～昭和 6.11.24
主事	矢代幸雄	昭和 6.11.25～昭和10. 5.31
所長事務取扱	和田英作	昭和10. 6. 1～昭和11. 6.21
所長	矢代幸雄	昭和11. 6.22～昭和17. 6.28
所長事務取扱	田中豊蔵	昭和17. 6.29～昭和22. 8.15
所長	田中豊蔵	昭和22. 8.16～昭和23. 5.10
所長代理	福山敏男	昭和23. 5.11～昭和24. 8.30
所長	松本栄一	昭和24. 8.31～昭和27. 3.31
所長事務代理	矢代幸雄	昭和27. 4. 1～昭和28.10.31
所長	田中一松	昭和28.11. 1～昭和40. 3.31
所長	関野克	昭和40. 4. 1～昭和53. 4. 1
所長	伊藤延男	昭和53. 4. 1～昭和62. 3.31
所長	濱田隆	昭和62. 4. 1～平成 3. 3.31
所長	西川杏太郎	平成 3. 4. 1～平成 8. 3.31
所長	渡邊明義	平成 8. 4. 1～平成13. 3.31
（独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所に移行）		
所長	渡邊明義	平成13. 4. 1～平成16. 3.31
所長	鈴木規夫	平成16. 4. 1～平成19. 3.31
（独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所に移行）		
所長	鈴木規夫	平成19. 4. 1～平成22. 3.31
所長	亀井伸雄	平成22. 4. 1～現在

4. 名誉研究員

氏名	退職時官職名	在所期間	名誉研究員 発令年月日
江上綏	情報資料部主任研究官	昭和38.5.18～昭和59.3.31	昭和59.10.18
猪川和子	情報資料部文献資料研究室長	昭和22.6.27～昭和60.3.31	昭和60.10.18
三隅治雄	芸能部長	昭和27.10.1～昭和63.3.31	昭和63.10.18
見城敏子	保存科学部物理研究室長	昭和34.4.1～平成元.3.31	平成元.10.18
濱田隆	所長	昭和62.4.1～平成3.3.31	平成3.10.18
関口正之	美術部長	昭和42.2.1～平成3.3.31	平成3.10.18
佐藤道子	芸能部長	昭和34.4.1～平成4.3.31	平成4.10.18
馬淵久夫	保存科学部長	昭和50.10.1～平成4.3.31	平成4.10.18
新井英夫	保存科学部長	昭和45.9.1～平成5.3.31	平成5.4.1
西川杏太郎	所長	平成3.4.1～平成8.3.31	平成8.4.1
三輪英夫	美術部第二研究室長	昭和53.8.1～平成8.3.31	平成8.4.1
蒲生郷昭	芸能部長	昭和56.4.1～平成10.3.31	平成10.4.1
中里壽克	修復技術部第一修復技術研究室長	昭和39.4.1～平成10.3.31	平成10.4.1
宮本長二郎	国際文化財保存修復協力センター長	平成6.4.1～平成11.3.31	平成11.4.1
羽田昶	芸能部音楽舞踊研究室長	昭和51.4.1～平成12.3.31	平成12.4.1
中村茂子	芸能部民俗芸能研究室長	昭和39.7.1～平成13.3.31	平成13.4.1
増田勝彦	修復技術部長	昭和48.8.1～平成13.3.31	平成13.4.1
米倉迪夫	情報資料部長	昭和50.9.1～平成13.3.31	平成13.4.1
星野紘	芸能部長	平成10.4.1～平成14.3.31	平成14.4.1
平尾良光	保存科学部化学研究室長	昭和62.4.1～平成15.3.31	平成15.4.1
井手誠之輔	協力調整官一情報調整室長	昭和62.7.1～平成16.3.29	平成16.3.30
斎藤英俊	国際文化財保存修復協力センター長	平成11.4.1～平成16.3.30	平成16.3.31
西浦忠輝	保存科学部長	昭和50.7.1～平成16.3.31	平成16.4.1
鈴木廣之	美術部日本東洋美術研究室長	昭和54.9.1～平成17.11.30	平成17.12.1
青木繁夫	文化遺産国際協力センター長	昭和49.7.1～平成19.3.31	平成19.3.31
三浦定俊	副所長	昭和48.8.1～平成20.3.31	平成20.4.1
鎌倉恵子	無形文化遺産部無形文化財研究室長	昭和63.4.1～平成20.3.31	平成20.4.1
鈴木規夫	所長	平成16.4.1～平成22.3.31	平成22.4.1
中野照男	副所長	平成4.4.1～平成23.3.31	平成23.4.1
清水真一	文化遺産国際協力センター長	平成19.4.1～平成23.3.31	平成23.4.1
石崎武志	副所長	平成8.12.1～平成26.9.30	平成26.10.1
田中淳	副所長	平成6.11.1～平成28.3.31	平成28.4.1
川野邊渉	文化遺産国際協力センター長	昭和63.10.1～平成28.3.31	平成28.4.1

5. 2015（平成27）年度予算等

(1) 予算

（単位：千円）

事 項	予 算 額
一般管理費	55,368
調査研究事業費	140,155
情報公開事業費	46,131
研修事業費	2,477
国際研究協力事業費	208,535
展示出版事業費	27,737
合 計	480,403

(2) 科学研究費助成事業交付一覧

（単位：千円）

研究種目	研究課題	研究代表者	交付額
基盤研究（B） 海外	考古遺物等を通じたベトナム木造建築様式の形成過程に関する研究	友田正彦	4,160
	中央アジア、シルクロード拠点都市と地域社会の発展過程に関する考古学的研究	山内和也	5,980
基盤研究（A）	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討	木川りか	15,210
基盤研究（B）	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発—旧修理材料や微生物痕の除去—	早川典子	2,470
	文化財建造物の伝統的な塗装彩色材料の再評価と保存・修理・資料活用に関する研究	北野信彦	3,380
	対外交渉史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	小林公治	3,640
基盤研究（C）	空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用	二神葉子	1,170
	平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究	小林達朗	2,080
	平安時代前期における神仏習合の展開とその彫刻に関する研究	皿井舞	1,950
	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	朽津信明	2,340

研究種目	研究課題	研究代表者	交付額
基盤研究 (C)	津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策	佐野千絵	1,300
	日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究	早川泰弘	1,820
	政治的危機に瀕する『越境文化遺産』の保護と平和活用・国際政治・公共政策研究の貢献	原本知実	(1,135)
挑戦的萌芽	文化財の材質調査のための2次元イメージング検出器の開発	犬塚将英	910
	実演用能装束の保存継承に関する研究—能楽の包括的継承の一指針として—	菊池理予	1,040
若手研究 (A)	染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—	菊池理予	4,680
	墨、煤、膠の製法と性状の体系化—伝統的製法の再現—	宇高健太郎	5,590
若手研究 (B)	GISを用いた古代クメール都市発展史の復元的研究	佐藤 桂	(1,979)
	古代メソポタミアの葬送儀礼に関する多角的研究	久米正吾	(940)
	絵画修復と絵画制作に用いる膠の物性に関する基礎的研究	楠京子	(371)
	塑像・乾漆像の部材構造を考慮したより高精度な地震時応答解析手法の開発	森井順之	1,300
	パネル保存型壁画における劣化の検証と保存管理環境の確立	前川佳文	2,340
	リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングについての研究	間瀬創	2,080
	放射光を用いた中東アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発	増淵麻里耶	1,040
特別研究員奨励費	彩色材と和紙からなる紙質文化財における和紙の劣化機構	貴田啓子	1,024
	墨、煤、膠の製法と性状の体系化	宇高健太郎	1,560
	毘沙門天像の成立と展開—唐・宋・元から平安・鎌倉へ—	佐藤有希子	1,430
学術図書	平安密教彫刻論	津田徹英	2,200
データベース	SAT 大正大藏經 画像編 データベース	津田徹英	4,500
研究活動スタート支援	江戸時代における初期文人画の基礎的研究—中国絵画学習とその地域性について—	安永拓世	1,430

※交付額が括弧内に記載された研究課題は前年度からの繰越により実施

(3) 受託調査研究一覧

(単位：千円)

研究課題	研究代表者	依頼元	契約総額
第39回世界遺産委員会審議調査研究事業	川野邊渉	文化庁	5,279
国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査業務	岡田健	文化庁	44,101
高松塚古墳壁画の保存・展示の在り方に関する調査業務	岡田健	文化庁	6,549

研究課題	研究代表者	依頼元	契約総額
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	岡田健	文化庁	36,393
文化遺産国際協力拠点交流事業(ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業)	川野邊渉	文化庁	15,863
文化遺産国際協力拠点交流事業(大洋州島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業)	飯島満	文化庁	4,509
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	川野邊渉	文化庁	43,897
文化財保護国際貢献事業(専門家交流)(ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業)	友田正彦	文化庁	20,799
美術工芸品修理技術人材等に関する調査研究事業	加藤雅人	文化庁	2,944
国宝 平等院鳳凰堂須弥壇漆塗調査業務	早川泰弘	京都府	591
高精細デジタル画像を活用した「菜蟲譜」複製製作に関する調査研究	早川泰弘	佐野市	1,610
ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「中央アジアのシルクロード世界遺産のための支援事業(第2期)」	山内和也	ユネスコ・アルマトイ事務所	3,030
ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「バガン建築遺産保存のための技術支援」	友田正彦	ユネスコ・バンコク事務所	1,388
シュエナンドー僧院における漆工部材の保存修復に関する調査研究事業委託	友田正彦	ワールドモニュメント財団	1,247
ラチャプラディット寺院の螺鈿扉の修復計画策定のための調査研究(平成25年から平成27年まで)	川野邊渉	ラチャプラディット寺院	0 (1,135)
国宝銅造阿弥陀如来坐像保存修理及び調査研究	森井順之	宗教法人高德院	32,392
日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法の検討(平成26年から平成29年まで)	木川りか	公益財団法人日光社寺文化財保存会	5,400 (16,200)
文化財展示収蔵施設等のA T P調査における留意点の検討	木川りか	公益財団法人文化財虫菌害研究所	621
絵金屏風の保存修理に関する調査研究	岡田健	公益財団法人熊本市美術文化振興財団	172
X線透過撮影によるピカソ作《青い肩かけの女》の光学調査	犬塚将英	愛知芸術文化センター	325
「大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト「保存修復材料としての和紙研修(エジプト国別研修)」」	山内和也	独立行政法人国際協力機構関西国際センター	665
エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト(フェーズⅡ)にかかる国内支援業務(平成23年から平成27年まで)	山内和也	独立行政法人国際協力機構	26,485 (116,008)

※契約期間が記載されていない研究課題は、平成27年度単年度の契約
※複数年度にまたがる事業については括弧内に全年度の予算額を記載

(4) 共同研究等一覧

(単位：千円)

研究課題	共同研究者	研究代表者	金額	区分
京都市内出土文化財の保存修復科学的な調査研究	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	北野信彦	300	受入
航空資料保存の研究	一般財団法人日本航空協会	中山俊介	400	受入
文化財建造物に使用された金箔に関する保存修復学的な調査研究	金沢箔技術振興研究所	北野信彦	1,500	受入
鎌倉市内遺跡（若宮大路周辺遺跡群等）出土資料の保存修復科学的な調査研究	鎌倉市	北野信彦	300	受入
徳川宗家伝来文化財に関する保存修復科学的な調査研究	公益財団法人徳川記念財団	北野信彦	400	受入

(5) 助成金一覧

(単位：千円)

研究課題	助成元	研究代表者	助成額
タイ所在の幕末期日本製螺鈿製品に関する調査研究	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	二神葉子	400
高宗前半期（7世紀第3四半期）の龍門石窟造営における敬善寺洞開窟の意味と初唐龍門仏像様式展開に関する研究	一般財団法人仏教美術協会	岡田健	500

(6) 寄付金一覧

(単位：千円)

研究課題	寄付者	担当部局	受入額
東京文化財研究所における研究事業の助成	株式会社東京美術倶楽部	企画情報部	1,000
東京文化財研究所における研究成果の公表（出版事業）	東京美術商協同組合	企画情報部	1,000

年度内主要事業一覧

期 日	事 業 名
27.4.20	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会研究所・センター調査研究等部会
27.5.29	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会総会（東京国立博物館）
27.6.9	鼎談「「かたち」の生成をめぐる一イケムラレイコの場合」
27.7.6	保存担当学芸員フォローアップ研修「水俣条約による水銀規制と展示照明等への影響」
27.7.8-17	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップ「日本の紙本・絹本文化財の保存修復」基礎編・応用編（ベルリン博物館群アジア美術館）
27.7.13-25	博物館・美術館等保存担当学芸員研修
27.7.16	IPMフォーラム「臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在」
27.8.31-9.18	国際研修「紙の保存と修復」
27.10.16-17	染織文化財の技法・材料に関する研究会「ワークショップ 友禅染—材料・道具・技術—」（文化学園大学）
27.10.30-31	第49回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」
27.11.4-20	国際研修2015「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」（メキシコ国立人類学歴史機構）
27.11.11-12	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ「染織技術の伝承と地域の関わり」
27.11.13-26	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップ「漆工品の保存と修復」Workshop I, III, IV（ケルン市博物館東洋美術館）
27.11.13	研究会「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」
27.12.4	第10回無形民俗文化財研究協議会「ひらかれる無形文化遺産—魅力の発信と外からの力」
27.12.18	第10回無形文化遺産部公開学術講座「邦楽の旋律とアクセント—中世から近世へ—」（東京国立博物館）
27.12.22	研究会「無形文化遺産と防災—伝統技術における記録の意義」
28.1.13	研究会「美術史家矢代幸雄における西洋と東洋」
28.1.15	第29回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「近代文化遺産の保存理念と修復理念」
28.1.24	国際シンポジウム「紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—」
28.1.26	第9回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会「文化財建造物の塗装修理に対する日本産漆使用の現状と課題」
28.1.29	被災文化財等保全活動の記録に関する研究会
28.2.5	2015年ネパール・ゴルカ地震による被災文化遺産に関するセミナー
28.2.15	文化財の保存環境に関する研究会「実験用実大展示ケースを用いた濃度予測と清浄化技術の評価」
28.2.22	無形の文化財に関する映像記録作成についての研究会
28.3.9	第4回無形文化遺産情報ネットワーク協議会

*末尾（ ）内に記載のない行事の開催場所は東京文化財研究所